

消費税10%をどう考える？


大石田町立大石田中学校教諭 3学年 後藤 早岐子

実施年月日：28年12月1日 75名

1 実践計画・指導のねらい

生徒は、税の中でも身近である消費税に関心を持っており、消費税が8%から10%に上がることに對して不満を持っていた。そこで10%に上がって負担が増えるという不満ではなく、増税の背景にある社会の変化・社会資本の充実・社会保障・国債の増加などの様々な面から増税が必要かどうかの理由を考えられるように授業を構成した。様々な面から考えさせることで、様々な意見が生まれ、その意見を交流させることで生徒の考え方に広がりが見られる。政治や経済などの既習事項を生かしながら税への理解を深めたい。

2 単元構成・実際の指導状況 (単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導)

時間	学習内容	主な発問 (○)、子どもたちの反応 (●)、使用教材等 (□)
1	・公共事業・公共サービスの提供・所得の格差の是正などの財政政策について理解する。	○ 公共サービスはなぜ必要なのか？ ● 公共サービスが無くなったら、生活が困難になったり、最終的には亡くなってしまおう人が出てしまう。 □使用教材名 資料集「ビジュアル公民」 自作のパワーポイント資料
2・3	・税の種類とその役割を理解し、日本の歳入と歳出の現状を理解する。 (2時間目 租税教室)	○ 税金にはどのような種類があって何に使われているのか？ ● 税金には、たくさんの種類がある。歳入では、間接税の割合が増えており、歳出では社会保障関係費の割合が増えている。 □使用教材名 パワーポイント資料 

【指導のポイント】《1時間目》
身近な公共サービスである警察・消防・学校というサービスが提供されなかったらどうなるのか、具体的な例で予想させ、財政の大切さを理解させる。

【指導のポイント】《2・3時間目》
税理士の方を招いて、租税教室を行った。税の種類や歳出・歳入についてグラフ・図をたくさん活用し、視覚的な教材からイメージを膨らませて理解を深めることができた。

時間	学習内容	主な発問 (○)、子どもたちの反応 (●)、使用教材等 (□)
4	・日本の発展と環境問題・少子高齢社会の問題・国際化の進展など変化に対応するための社会資本に税が使われていることを理解する。	○ 社会資本を整備する目的は何だろう？ ● 私たちの生活に欠かせない必要なものを作ったり、私たちの生活を守ったりするためには、社会資本は大切なものである。 □使用教材名 資料集「ビジュアル公民」
5	・憲法第25条から、社会保障の重要性を理解し、少子高齢社会となっている日本の現状から、福祉の充実の重要性を考える。	○ 社会保障のこれからを考えよう。 ● 日本は、少子高齢社会だから、社会保障関係費の増加に対応するために、増税が必要かもしれない。 □使用教材名 資料集「ビジュアル公民」 山形県ホームページ歳入予算
5	・社会保障関係費を確保するための方法として、消費税増税が進められてきたが、消費税10%への増税に対して考をまとめる。	○ 消費税10%をどう考える？ ● 少子高齢社会を支えるためには、消費税増税は仕方ないのかもしれない。国債が増え続けては、大変な事になってしまう。 □使用教材名 資料集「ビジュアル公民」

【指導のポイント】《5時間目》
・グラフや図から生徒自身が日本の抱える課題について読み取れるようにした。自分たちで課題を見つけ出すことで、その後の学習に対する意欲を高められるようにした。

【指導のポイント】《6時間目》
・まとめとして、これまでの学習を振り返らせながら作文形式でまとめさせた。税の重要性と、税を効率的に使うことの重要性について、身近な消費税増税の観点からとらえさせることで、自分ごととしてとらえることができるようにした。

3 実践の成果 (◎) と課題 (◆)

- ◎ 社会保障関係費の増加と消費税増税に着目することで、消費税という身近なものから税負担と保障の充実という課題をとらえられた。また、税の使われ方について考えを深めることができた。
- ◆ 公民の終盤の単元として、資料からの読み取りをもとに考えを深めたり、発表したり、発表から意見を出して話し合ったり、生徒主体の授業を仕組もうとしたが、思うように生徒の考えが広がりを見せず、主体的なものにできなかった。これまでの授業の積み重ねが足りなかった。
- ◆ 考えを深めるための資料やグラフなど適切なもの厳選して提示することが難しいと感じた。